

令和4年度 自己評価・学校関係者評価委員会

学校法人育徳学園 フレンズ幼稚園

1. 本園の教育目標

- ◎基本理念 「みんなの笑顔があふれ、毎日が楽しい幼稚園。」
- ◎教育目標
 - ・健康で生き生きとした子どもを育てる。
 - ・情操豊かで、自らを表現できる子どもを育てる。
 - ・集団生活のルールを守り、友達と仲良く遊べる子どもを育てる。
 - ・自ら取り組み、最後までがんばれる子どもを育てる。
 - ・思いやりのある優しい子どもを育てる。

2. 本年度の重点的に取り組む目標

『元気の良い「挨拶」「返事」をしよう』『履物を揃える』

豊かな経験を通じて、感じたり、気付いたり、分ったり、できるようになったりする知識及び技能の基礎を培う。

活動を継続して行う中で、「できた」という達成感を味わい、「挑戦しよう」という意欲をもつようになる。

☆にこにこ :場面に応じた適切な挨拶・言葉を保育者と共に言い、使い方を知る。自分の靴箱の場所を知り自分で片付けられるようになる。

☆年少組 : 挨拶、返事「名人証」を通して意欲的に取り組む。上靴や靴のチェックを行う中で自ら揃えられるようになる。

☆年中組 : 挨拶と返事のチャンピオンを毎月紹介し、意欲的に取り組めるようにする。靴箱の確認を毎日当番が行うことで子ども同士で気付き合い履物を揃えられるようにする。

☆年長組 : クラス、学年活動の中で手本となる子を紹介し、自ら実践するよう意識をする。

リーダーが活動項目の1つとして毎朝靴箱のチェックをし、一人一人が気付けるようになる

評価 / A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

| 評価項目 | 内 容 | 評価 | 備考(評価の理由など) |
|--------------------|--|----|---|
| 保育内容と計画 | 園の教育理念・教育方針を理解しているか | A | ●教育理念は毎週の読み合わせ、教育方針は学期毎の振り返りで再確認できている。 ●毎週提出の各自の反省で、保育計画の見直しを行うことができている。 |
| | 本年度の保育計画は適切であったか | A | ●行事前になるとサイバードリームも含め、漢字絵本等の時間の確保が難しい。 (にこ)保育者が率先して挨拶をし、手本となるよう心がけてきた。 |
| | PDCA(目標・実行・評価・改善)サイクルに基づいた保育計画が立てられているか | A | (少)年間を通して名人証を意識し、意欲的に挨拶や返事をするようになった。 |
| | 保育計画は「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえたものであったか | A | (中)子どもが元気に挨拶できた時には、その都度一人ひとりを褒めるようにし、「できた」という喜びが感じられるようにしてきた。チャンピオンになった子どもの、どんなところが良かったのか、具体的に知らせるようすることで、意識へとつなげた。 |
| | 英語学習システム「サイバードリーム」や「漢字絵本」「俳句」に毎日取り組んでいるか | B | (長)子どもだけでなく、指導する保育者自身も意識して挨拶するようになった。 |
| | 各学年の目標に向けての取り組みが継続して行うことができたか | A | 靴の検査を通して、子ども同士で声を掛け合うようになりクラスのまとまりも出てきた |
| 子どもの在り方、 保育の接し方 | 幼児一人一人を認め理解に努めているか | A | ●一人ひとりとしっかりと向きあい、それぞれの良いところを見つけ、苦手なことを克服する援助を心掛けてきた。 |
| | 毎日の保育を振り返り、以後の保育に活かすようにしているか | A | ●支援の必要な子どもが多かったため全体を見るのではなく、個々の育ちを大切にしていた。 |
| | 常に創意工夫をもって保育を実践しているか | A | ●週の反省にて毎週振り返りを行うことで、前週の子どもの姿が見えてくるし、実態の把握がしやすい。 |
| | 幼児の声に耳を傾け、同じ目線で接することが出来ているか | A | ●日々の保育の中で足並みを揃える部分も必要だが、各担任が独自の保育を計画・実践することも必要だと感じる。自分の得意分野を活かした保育実践をする機会をもてると良いと感じる。 |
| | 褒めたり励ましたりしながら、幼児が自信をもって活動できるような指導を行っているか | A | ●褒めること、叱ることをメリハリをもって行う。感情的に叱らず愛情をもった叱り方を心掛けた。 |
| 環境の構成 | 幼児の興味関心を育む環境構成をしているか | B | ●折り紙や塗り絵などを準備し、個人でも遊べる環境構成を意識した。 |
| | 保育室、園庭、遊具等の安全で清潔な環境構成をしているか | A | ●季節を感じるができる製作に取り組んできた。 |
| | 幼児が安心して遊びこめる環境構成をしているか | A | ●噴霧器の購入により、玩具の消毒が手軽にできるようになり、これまでに比べてたくさんの玩具が出せるようになった。 |
| | 遊具やコーナーの設定は、幼児の動線を考えたものになっているか | A | ●年少組では新しいまごごとを購入し、遊びの幅が広がったように感じる。 |
| | 季節が感じられる等、豊かな感性を育むことができる工夫をしているか | B | ●季節を感じられるような花を飾ったり、製作物を掲示するようになってきた。 ●帰る前に、ロッカーの整理をするよう促し、綺麗な状態が保てるようにした。 |
| 協力・連携・役割 教職員相互の | 報告・連絡・相談を適切に行っているか | A | ●朝礼、終礼、職員会議等で報告、連絡、相談をする機会は十分あるが、日々の生活の中で何を連絡し、何を相談すべきかが分かっていない教員がいる。(にこにこやリトルとの連携も心がける) |
| | 教職員が共有すべき必要な情報を共通理解できているか | A | ●学年に新人の先生がいないと、接する機会が少ないので、学年を越えて指導できるように心がけていきたい。 |
| | 守秘義務を守れているか | A | ●新人教育だけでなく、中堅の先生たちの指示待ちの状態もあるので、責任をもって任せられるよう指導していくことの大切さを感じている。 |
| | 新人教育が適切に行われたか | A | |

| | | | |
|--------------------|--|---|---|
| 幼児への支援 特に配慮が必要な | 個別の話し合いが職員間で行われているか | A | <ul style="list-style-type: none"> ●保護者の方からの相談で、自分自身で解決できないことは、園長や主任に相談し、安心してもらえるようにした。 ●例年に比べ、支援児が多いため、療育センターの施設支援の制度や、教育相談を活用することで、園児の現状を保護者と共通理解することができている。 ●グレーゾーンの子については、個性かどうかは見極めが難しい。 ●就学相談、教育相談のお知らせは、気になる子だけでなく、年長児全員に通知した。 |
| | 段階を踏みながら、必要な情報をきちんと保護者に伝えられているか | A | |
| | 保護者の相談を親身に受けているか | A | |
| | 医療機関や関係機関と連携をとり、情報交換を行い支援に役立っている | A | |
| 保護者への対応 ・家庭支援 | 幼児の成長や変化を保護者に伝え喜びを共有するように努めている | A | <ul style="list-style-type: none"> ●「クラスだより」や「おたより」を通して、成長や変化を保護者と共有することができた。 ●「クラスだより」に加えて、週メール定期配信を行い、活動内容を伝えてきた。2歳児のみでなく年少でも行った。 ●「おうちえん」での発信も、家庭との連携に役立った。 ●怪我については、園で生じたことであっても、その後の保護者間の関係も考え、双方にきちんと報告をしてきた。 |
| | 幼児の気になる様子を保護者に伝えている | A | |
| | 保護者からの様々な相談に対して適切に対応している | A | |
| | 保護者との対応は公平を欠かさないように心がけている | A | |
| 衛生管理 | うがい・手洗い等をはじめ、感染症等の対策について教職員間で共通理解し、実践しているか | A | <ul style="list-style-type: none"> ●毎朝の体温を家庭で測定してもらい、チェックカードで確認している。 ●家族に発熱があった時の対応が職員間で共通理解されていないことがあった。 ●コロナ対策が緩和されて、衛生への意識が職員によって差がでてきた。 ●2学期の始めに、コロナの園内感染があり、1週間の休園をした。それをきっかけに、噴霧器の購入をしたり、消毒の徹底の再確認をした。 ●部屋の換気はこまめにしている。また、体調の変化に気づけるように、保育の中で視診、触診を細目に行っている。 ●ここ数年、職員の救命講習の機会がない。嘔吐のみでなく怪我などの対応についても共通理解していきたい。 |
| | 衛生への意識の担保・向上のため、行政等からの情報を教職員間で保護者への伝達も含めて把握・共有出来ているか | A | |
| | 感染症等の対策として換気や加湿等を行っているか | A | |
| | 毎朝、検温確認を行い幼児の体調管理に配慮しているか | A | |
| | 嘔吐した場合の対処・処理法を教職員間で共通理解し、実践しているか | A | |
| | 屋内の遊具や玩具を清潔にしているか | A | |

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

| 評価 | 理由 |
|----|--|
| A | 自己評価を行い、改善すべき点が見えてきた。特にコロナ禍3年目の今年は、園行事を取りやめる方向ではなく「どうすれば実施できるか」を模索してきた1年である。2学期始めの園内感染により、実施の難しい行事もあったが、PDCAサイクルに基づき、柔軟に対応することができたと思う。 |

5. 今後取り組む課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|---------------------|---|
| 「漢字絵本」「サイバードリーム」の実施 | 毎日行うことを基本としてきた「漢字絵本」「サイバードリーム」の時間の確保が難しかった。特に行事前になるとほとんど実施できていない。昨年度の課題が、克服できなかったことは大きな反省である。 |
| 環境構成 | 園児一人ひとりに寄り添い、褒める機会をたくさん作り自己肯定感を高めるよう努力してきた。しかし、好きな遊びを自分で見つけたり、遊びの幅を広げたりできるような環境構成の工夫が足りなかったように感じる。 |
| 衛生管理 | 感染症対策については十分に気を付けてきた。しかし園内で多くの感染者が出てしまったことは、大きな反省点である。いつでも問題意識をもって感染症対策に取り組めるよう、チェック表等を有効に活用していきたい。 |

6. 学校関係者評価委員会の評価

評価項目の達成及び取り組みを拝見し、これだけ多くの事を先生方が意識し実施されていることを知り、大変驚かされました。毎年、重点的に取り組む目標を掲げ、その実現の為に学年ごとにやり方を考えておられるなど先生方がしっかりと園児一人ひとりと向き合い、努力されてこられたことで子どもたちの成長につながったと大変評価しております。行事に対して、どうすれば実施できるかという考えのもと、前向きに取り組んでこられた点もとても素晴らしいと感じます。項目の中で、昨年に引き続き2年続け、漢字絵本やサイバードリームを毎日取り組むことが行事前になると難しかったと出ていますが、それを次年度にどのように活かしていくか楽しみにしております。来年は、世の中がコロナ前の状態に戻っていくと思われませんが、安心安全な幼稚園づくりを継続し、みんなの笑顔があふれ、毎日が楽しい幼稚園になるように願っています。

今年度も目標を掲げ、どのようにしたら子どもたちが取り組めるか、年間・月・週と細かく見直しも行って頂いており、日々の大変な業務の中有り難い限りです。コロナ禍の中でも、どのようにすれば行えるかを考えて頂き、今年度も数々の行事を開催して頂きました。そのお陰で子どもたちの沢山の笑顔や成長する姿を見ることができ、そして「おたより」以外でも園に行った際には色々な先生から園での様子を伺うことができ、安心して通うことができていると感じております。来年度はコロナが 5 類に移行することもあり、園生活の中でもコロナ前に戻していく部分も出てくるかと思えます。保護者としても引き続き協力していきたいと思っております。子どもたちがより良い環境で、楽しく遊んだり学んだりできるように常に考えて頂きありがとうございます。

いつも幼稚園を信頼しきって子どもを預けることができました。そのために先生方が毎週のようにきめ細やかな振り返りを行い、その反省を活かして翌週の保育に臨んでいるということを知り、頭が下がる思いです。一人一人に向き合うという真摯な姿勢が素晴らしいです。また、「教科担任制」のような制度の取り入れは、「個性を大切にすること」という今日の社会にも合っていて考えとしては良いと思います。しかし、園にまだ慣れていない年少組さんは担任の先生との愛着形成もとても大切だと思えますので、幼稚園にも他の先生にも慣れてきた年中組さんから取り入れるようにしてはと思いました。

学校関係者評価委員

委員会実施日

令和 5 年 3 月 8 日

学校関係者評価委員

委員会実施日

令和 5 年 3 月 8 日

学校関係者評価委員

委員会実施日

令和 5 年 3 月 8 日